

完了報告書

記入年月日 2026年2月16日

採択団体名 静岡防災教育推進協議会

■事業概要

基本情報	
事業名	静岡防災教育ネットワーク構築事業
事業内容	<p>事業内容①「世代を超えた防災教育」 対象:幼児～高校生等 内容:地元大学生と連携し、高校生等への防災教育を行い、高校生等が未就学児や児童への防災講座を企画し、実践まで行った。本防災人材育成プログラムを実施し、次世代の防災リーダーを育成した。 実施校:静岡県立駿河総合高校等</p> <p>事業内容②:「被災地での防災研修・ボランティア」 対象:高校生・大学生 内容:防災やボランティアに関する事前研修と令和6年能登半島地震の被災地や九州の豪雨被災地、台風15号による竜巻被害等でのボランティア活動を通し、防災に主体的に行動できる地域の防災リーダーを育成した。</p> <p>事業内容③:「企業・地域防災リーダー研修」 対象:企業・地域住民 内容:地元大学等と連携し、企業・地域住民を対象に企業防災や地域防災のリーダーを育成する。また研修会を通し、産官学民の平時からのネットワークを構築した。</p> <p>事業内容④:「産官学民連携・協働イベント『静岡 BOSAI Edu EXPO 2026』」 対象:幼児～大学生、地域住民、企業 内容:事業①～③で参加した主体が一同に出展し、静岡県内の防災教育に関する知見を持ち寄り共有するとともにネットワークを構築した。</p>
事業背景	静岡県は、南海トラフ巨大地震で全国最多の死者数が想定されており、大規模災害への備えが喫緊の課題である。このため、世代を超えた防災教育の展開、被災地での実践的研修、企業・地域リーダー育成が必要となっている。本事業は、これらの取り組みを通じ、地域で主体的に行動できる防災人材を育成し、「ふじのくにジュニア防災士」の創出や、産官学民が連携する強固なネットワークを平時から構築することで、地域全体の防災力向上に貢献する。
コミュニティ設立の経緯	2025年7月、損害保険ジャパン株式会社、静岡県、静岡大学藤井基貴研究室の三者により、「越境学習ワークショップ」が静岡県庁にて企画・開催された。本ワークショップには、県内外から多様な企業・団体が参加し、藤井研究室と損保ジャパンが共同開発した「BCP(事業継続計画)教育プログラム」をもとに、地域防災に関する意見交換が行われた。 この取り組みを契機に、ワークショップ参加団体を中心として「静岡防災教育推進協議会」が発足した。本協議会は、産学官民の連携を通じて、専門的な知見の集約と共有を進め、組織の枠を超えたネットワークを構築することにより、静岡県全体における防災教育のさらなる振興を目指す。今後も連携機関を広げながら、学校教育を基盤とした子ども・若者世代への防災教育の普及と地域に根ざした防災活動の活性化に取り組む。
本事業に関する過去の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none">● 損害保険ジャパン株式会社、静岡県、静岡大学藤井基貴研究室の三者により、「越境学習ワークショップ」を実施● 株式会社建設システムと静岡大学にて総合防災アプリ「クロスゼロ」、「ソナクエ」を共同開発

事業体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人 BOSAI Edulab ・ 静岡大学大学院教育学研究科附属現代教育研究センター ● 幹事会員 <ul style="list-style-type: none"> ・ 損保ジャパン株式会社 ● 会員(五十音順) <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠州鉄道株式会社 ・ 株式会社建設システム ・ 静岡県(危機管理部) ・ 静岡銀行 ・ 静岡新聞社・静岡放送 ・ 静岡鉄道株式会社 ・ JA 共済連静岡 ・ TOKAI グループ
全体スケジュール	<p><7月> ・「越境学習ワークショップ」</p> <p><9月～10月中旬> ・全体会議 ・鹿児島県始良市・静岡県牧之原市でのボランティア・視察 ・静岡県立駿河総合高校での防災探究学習の支援</p> <p><11月下旬～12月下旬> ・静岡県立駿河総合高校での防災探究学習の支援 ・静岡県内の土砂災害現場の視察 ・「企業・地域防災リーダー研修」の実施(12月に3回)</p> <p><1月> ・「企業・地域防災リーダー研修」の実施(1月に3回) ・「静岡 BOSAI Edu EXPO 2026」の開催 ・兵庫県神戸市での視察</p>
事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 産官学民の連携を継続的に強化し、学術的知見に基づき常にアップデートされた防災教育プログラムを開発・実践する体制を確立する。 ● 平時からの強固な県内団体間ネットワークを構築し、災害時における円滑な情報共有・連携・支援体制の基盤を確立・拡張する。 ● 世代・分野を超えた防災教育モデル活動(①～④)のノウハウを体系的に蓄積し、県内全域への普及を促進するための知見を明確化する。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業を通じて新たに防災教育ネットワークに連携する団体を10団体以上増やす。 ● 防災教育事業を実施し、500名以上の防災への参画を促す。

<p>事業成果全般 (教育提供者)</p>	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防災教育プログラムのための教材が確立されつつある。 ● 協議会の基盤を構築し、運営体制が整備できつつある。 ● 被災地でのボランティア・視察を通し知見を収集した。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークを構築するため協議会加入を促し、計 11 団体が加入し、活動を行った。 ● 会員企業の開発した総合防災アプリ「クロスゼロ」(https://x-zero.jp/)にてデータの共有や連絡をし、交流を円滑かつ密に行う基盤を構築した。 ● 協議会公式サイト(https://bosai-shizuoka.jp/)を開設し、活動を広く発信し、ネットワークを拡張した。 ● 14 名の学生・企業職員・NPO が静岡県・鹿児島県・石川県・兵庫県の被災地を訪れる機会を提供し、被災者をつなぎ、被災地と静岡県とのネットワークを形成した。 ● 300 名の企業職員・地域住民や学生等へのオンライン研修会による知見の提供を行い、専門家とのネットワークを構築するとともに、防災教育に関する知見を提供した。 ● EXPO では、120 名が来場し、産官学民の協働を促すとともに、若者の防災活動を応援する体制の基盤を構築した。
<p>事業目標全般 (参加者側)</p>	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防災教育プログラム(①～④)を通じて、幅広い世代(幼児～企業・地域住民)の参加者が、地域で主体的に行動できる防災人材へと成長する。 ● 被災地での実践的研修・ボランティア活動(②)を通し、参加者(特に高校生・大学生)の生きる力、問題解決能力、地域貢献意識を大幅に向上させる。 ● 研修会やイベント(③、④)を通じて、参加者一人ひとりの防災意識と知識を向上させ、家庭や地域への防災意識の波及効果を生み出す。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次世代の防災リーダーを 100 名以上創出し、地域社会の防災活動における中心的な担い手とする。 ● 事業全体で延べ 500 名以上の参加者を獲得する。
<p>事業成果全般 (参加者側)</p>	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校での防災教育や被災地ボランティア・視察、研修会を通し、防災への知見を深めた。 ● 協議会定例会議・研修・EXPOを通し、県内の産官学民ですぐに電話でき少し無理を言える関係を構築できた。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校での探究支援を通し、100 名以上の生徒が防災について主体的に学んだ。 ● 14 名の学生・企業職員・NPO が静岡県・鹿児島県・石川県・兵庫県の被災地を訪れ、被災者から直接声を聞き、現地の課題や現状を把握し、今後の防災教育や静岡県での備えの重要性の理解を深めた。 ● 300 名の企業職員・地域住民や学生等がオンライン研修会に参加し、防災教育に関する知見を深めた。 ● EXPO では、120 名が来場し、産官学民の協働先を把握し、若者の防災活動を応援する風土を醸成するとともに、若者の防災への意欲向上を行った。
<p>展開できる 知見やノウハウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域と学校をつなぐ「産官学民」連携モデルの構築と運営ノウハウ ● 世代を超えた実践的な防災人材育成サイクルの確立 ● 社会と若者をつなぐことによる若者へのモチベーション付与 ● デジタルツールを活用した平時の情報共有と連携促進 ● 全県的な防災教育推進に向けた知見の集約
<p>コミュニティ防災教育の重要な観点</p>	<p>コミュニティ防災教育を進める上で、産官学民の強固な連携体制を平時から構築し、学術的知見に基づきプログラムを常にアップデートすることが重要となる。また、幼児から企業・地域住民まで世代を超えた複合的なアプローチで幅広い層に対応し、被災地研修を通じた実践的かつ主体的な学びを提供する必要がある。さらに、デジタルツールの活用による円滑な情報共有と連携体制の整備が、災害時にも機能するコミュニティ防災力を高める鍵となる。そして、平時からの連携による各団体のリソースや提供可能な情報を事前に確認しておくことが災害時の円滑な連携につながると考える。</p>

残課題等	<ul style="list-style-type: none">● 県内高校以外の教育機関との連携● 県内企業や団体との継続的なネットワーク構築と拡大● 協議会の継続とその資金調達
------	--

■事業内容

事業内容①「世代を超えた防災教育」	
事業内容①目標 (提供者側)	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域と学校をつなぐ「世代を超えた防災教育」モデル活動のノウハウを体系的に蓄積し、県内他校への普及・横展開に向けた知見を明確化する。 ● 地元大学、高校、県との連携を密接にし、「ふじのくにジュニア防災士」育成プログラムの質の継続的な向上と実践体制を確立する。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防災教育プログラムを実施し、本事業全体で100名以上の防災への参画を促す。
事業内容①目標 (参加者側)	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校生等が、企画・実践を通して次世代の防災リーダーとして主体的に行動できる人材へと成長する。 ● 幼児・児童への防災講座実施により、参加者自身の防災意識と知識を向上させ、家庭や地域への防災意識の波及効果を生み出す。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本プログラムを通し、次世代の防災リーダーたる「ふじのくにジュニア防災士」を100名以上創出する。
事業内容① 中間発表 (実施日:10/20)	<p>■具体的な取り組み内容 屋外にてアイスブレイクを兼ねたワークの後、各グループでワードラリーによる学内探索を行った。その後、防災総合センターのセミナー室において研究室の活動紹介や、発災前、直後、復興のタイミングで高校生は何かができるのかといった防災ワークショップを行った。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者)</p> <p><提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校生へのワークショップ手法の知見を習得した。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害時を具体的にイメージし、災害時に自らができるのかを自分事として考えるきっかけとなった。 ● 高校生は大学の環境を知り、進路についても考えるきっかけとなった。
事業内容① 最終報告会 (実施日:12/18)	<p>■具体的な取り組み内容 地域の課題を発見し、解決のために防災の基礎を学んだ。実際に解決のための手法をグループで検討し、調査、検証を行い報告を行った。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者)</p> <p><提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校生への教育手法の知見を蓄積できた。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の課題を発見できた。 ● 防災についての基礎的知見を身に着けた。 ● 地域と連携し、課題解決の試行を行い、課題解決能力を習得した。
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点 大きな課題の一つは、防災学習やフィールドワークが学校の探究活動の一環であり、生徒が自主的に参加した活動ではないため、高校生に「防災」を自分事として捉えてもらうことであった。</p> <p>■乗り越えた方法 座学に留まらず、学内探索(ワードラリー)といった体を動かす活動を取り入れることで、生徒が自分の</p>



	目で学内を観察し、身近な環境における防災の視点を養うことを促した。さらに、防災に関する現状を自分たちの力で把握させるため、在学生へのインタビューを企画・実施した。これにより、高校生は主体的に情報を集める体験を通して、自分たちの世代における「防災」の課題を具体的に認識し、「自分事」として考えるきっかけを作ることに成功した。また、地元大学生と連携し、探究学習を継続的に伴走支援することで、生徒が自らアクションを起こすことを意識し、主体的に行動する態度を養うことに繋がったのである。
事業内容①を実施する上で工夫した点	地元大学生と連携し、高校生に継続的に大学生がサポートすることで、探究学習を伴走支援した。アクションを起こすことを意識し、主体的に行動する態度を養った。
事業内容① 残課題等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育学を専攻する学生による伴走支援を行えたため今回は円滑な高校生のサポートが行えたが、教育学専攻ではない大学生による探究支援を行う際のポイントや形をまとめたマニュアル等の作成が課題となる。
事業内容②「被災地での防災研修・ボランティア」	
事業内容②目標 (提供者側)	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和 6 年能登半島地震・台風 15 号での竜巻被害・鹿児島県始良市での豪雨被災地でのボランティア・視察を通じ、実践的な防災研修のノウハウを収集・蓄積し、プログラムをアップデートする。 ● 被災地での活動を通じた防災人材育成プログラムの実効性を検証し、知見を明確化する。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防災教育事業を実施し、本事業全体で 20 名以上の防災への参画を促す(全体目標)。
事業内容②目標 (参加者側)	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 被災地での実践的研修・ボランティア活動を通じ、参加者の生きる力、問題解決能力、地域貢献意識を大幅に向上させる。 ● 災害の多様性を理解し、防災に主体的に行動できる地域の防災リーダーとして必要な心構えとスキルを習得する。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 被災地での研修・ボランティア参加者を 20 名以上創出する。

<p>事業内容② 実施内容 A (実施日: 9/13 - 15, 20 - 21)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 防災やボランティアに関する事前研修と台風 15 号による竜巻被害等でのボランティア活動を通し、防災に主体的に行動できる地域の防災リーダーを育成した。本ボランティアでは、被災者が罹災証明書を発行する受付および交付、生活相談窓口の待合場所にて「学生カフェ」を運営し、被災者の方のほっとする場を提供した。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) <提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の社会福祉協議会や市役所、行政書士等と連携を図るなど、被災地との連携のノウハウを獲得することができた。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加した学生は被災された方の生の声を聴き、現地の課題や被災直後の困りごとを把握した。 ● 被災者は学生と交流し、少しの休息を提供した。 	
<p>事業内容② 実施内容 B (実施日: 10/24 - 26)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 防災やボランティアに関する事前研修と九州の豪雨被災地でのボランティア活動を通し、防災に主体的に行動できる地域の防災リーダーを育成した。始良市社会福祉協議会と連携し、豪雨による土砂の撤去と、被災された方のお宅を回り、アウトリーチ活動を実施した。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) <提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の社会福祉協議会と連携を図るなど、被災地との連携のノウハウを獲得することができた。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3名の参加した学生は被災された方の生の声を聴き、現地の課題や被災直後の困りごとを把握した。 ● ボランティア活動を通し、豪雨災害による被害の実態を把握した。 	
<p>事業内容② 実施内容 C (実施日: 11/1 - 3)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 防災やボランティアに関する事前研修と能登半島地震・豪雨でのボランティア活動を通し、防災に主体的に行動できる地域の防災リーダーを育成した。現地で継続的に活動する NPO や団体と連携し、水害の被災地でのボランティア活動や被災地の現状を把握した。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) <提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 継続的にかかわる NPO や企業と連携を図るなど、被災地との連携のノウハウを獲得するこ 	

	<p>とができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1年以上が経過した被災地の現状を把握した。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4名の参加した学生・企業職員は被災された方の生の声を聴き、現地の課題や被災直後の困りごとを把握した。 ● ボランティア活動を通し、豪雨災害による被害の実態や長期化する復興の実態、現在の生業を把握した。 	
<p>事業内容② 実施内容 D (実施日:1/24-25)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 「ぼうさい甲子園」にて全国の先進的な防災教育事例に関する情報収集を行ったほか、「人と防災未来センター」「神戸港震災メモリアルパーク」等の視察、阪神・淡路大震災の語り部の講話への参加を行った。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) <提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 協議会メンバーも参加できる形をとることで、協議会内での防災知識の向上や関係構築にも繋がった。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 7名の参加者は発生から長い年月が経過した阪神・淡路大震災について、その現状を学んだ。 ● 様々な立場にあるメンバーが合同で視察を行うことで、互いに様々な視点からの学びを得ることができた。 	 
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 被災地での活動では、現地の社会福祉協議会が週末に閉所しているなど、活動時間の調整が困難であった。また、宿泊場所の確保や、レンタカー不足、運転手の手配など、現地での移動手段の確保にも苦慮した。これら平時とは異なる環境下でのロジスティクスと、被災地の状況に応じた柔軟な現地団体との連携調整が、今後の継続的な課題である。</p> <p>■乗り越えた方法 現地のボランティアセンター閉所に伴い、以前から連携があり、被災地に常駐している NPO と連携し、活動を実施できた。また、普段の連携から、被災された方へのソフト面でのサポート不足の声上がり、「学生カフェ」という新たな取組にも挑戦することができた。</p>	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>現地の状況に柔軟に対応するため、週末のボランティアセンター閉所に際し、以前から連携のあった常駐 NPO と協働し、活動を継続できた。さらに、平時の連携の中で被災者のソフト面でのサポート不足という課題に着目し、学生による「学生カフェ」という新たな取組を立ち上げた。これにより、被災された方に休息と交流の機会を提供し、ニーズに合わせたきめ細やかな支援を実現した。</p> <p>現地を継続的に取材するメディアや語り部と連携をし、当時の様子や現在のリアルをお聞きし、今後の防災教育への示唆を得た。</p>	
<p>事業内容② 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 被災地のボランティア・若者不足 ● 復興の長期化へのアプローチ 	

事業内容③「企業・地域防災リーダー研修」

事業内容③目標 (提供者側)	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地元大学等と連携し、企業防災や地域防災の専門的知見に基づき、研修プログラムを開発・実践する体制を確立する。 ● 研修会を通し、産官学民の平時からの強固なネットワークを構築・拡張し、災害時における円滑な連携・支援体制の基盤を確立する。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研修会へ 200 名以上参加する。
-------------------	---

事業内容③目標 (参加者側)	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研修を通じて、参加者が企業防災または地域防災のリーダーとして主体的に行動できる知識とスキルを習得する。 ● 参加者一人ひとりの防災意識と知識を向上させ、企業や地域における防災意識の波及効果を生み出す。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 200 名以上の地域社会の防災活動の担い手を育成する。
-------------------	---

事業内容③ 実施内容 A (実施日:12/10)	<p>■具体的な取り組み内容 地元大学等と連携し、著名な防災専門家をお呼びし、企業・地域住民を対象に企業防災や地域防災のリーダーを育成する。また研修会を通し、産官学民の平時からのネットワークを構築する。 同回では、慶應義塾大学の木本聖子先生をお呼びし、「地震の基礎と防災教育」と題しご講演いただいた。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) <提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門家とのネットワークを構築した。 ● 66 名の企業従業員・地域住民に地震の基礎的知見を提供した。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最前線の研究成果を把握し、地域防災や防災教育のための基礎的知見を身に着けた。 ● 9 割以上が「とても役立つ」と「やや役立つ」と回答し、有用な情報を得ていると感じたことがわかる。 	
--------------------------------	---	--

事業内容③ 実施内容 B (実施日:12/11)	<p>■具体的な取り組み内容 地元大学等と連携し、著名な防災専門家をお呼びし、企業・地域住民を対象に企業防災や地域防災のリーダーを育成する。また研修会を通し、産官学民の平時からのネットワークを構築する。 静岡大学の岩田孝仁先生をお呼びし、「想像力の欠如に陥らない防災」と題しご講演いただいた。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) <提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門家とのネットワークを構築した。 ● 55 名の企業従業員・地域住民に地域防災の基礎的知見を提供した。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最前線の研究成果を把握し、地域防災や防災教育のための基礎的知見を身に着けた。 ● 回答者全員が「大変満足」または「満足」と回答し、講義内容の充実感を得ていた。 ● 回答者全員が「とても役立つ」または「やや役立つ」と回答しており、ウェビナーの有用性について 	
--------------------------------	--	--

	<p>ても非常に高い評価を得た。</p>	
<p>事業内容③ 実施内容 C (実施日:12/24)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 地元大学等と連携し、著名な防災専門家をお呼びし、企業・地域住民を対象に企業防災や地域防災のリーダーを育成する。また研修会を通し、産官学民の平時からのネットワークを構築する。 同回では、静岡大学の小山真人先生をお呼びし、「火山防災の基礎と対策」と題しご講演いただいた。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) <提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門家とのネットワークを構築した。 ● 53名の企業従業員・地域住民に火山防災の基礎的知見を提供した。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最前線の研究成果を把握し、地域防災や防災教育のための基礎的知見を身に着けた。 ● 回答者全員が「大変満足」または「満足」と評価しており、ウェビナーへの満足度が高かった。 ● 回答社全員が「とても役立つ」または「やや役立つ」と回答しており、ウェビナーの内容が参加者の業務や地域活動にとって実用的であると認識されていた。 	
<p>事業内容③ 実施内容 D (実施日:1/7)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 地元大学等と連携し、著名な防災専門家をお呼びし、企業・地域住民を対象に企業防災や地域防災のリーダーを育成する。また研修会を通し、産官学民の平時からのネットワークを構築する。 同回では、筑波大学の白田裕一郎先生をお呼びし、「防災 DX の最前線と今後の課題」と題しご講演いただいた。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) <提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門家とのネットワークを構築した。 ● 30名の企業従業員・地域住民に防災 DX の基礎的知見を提供した。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最前線の研究成果を把握し、地域防災や防災教育のための基礎的知見を身に着けた。 ● 参加者の87%が講義内容について「とても役立つ」「やや役立つ」と回答し、業務・活動への関連性も評価された。 	

事業内容③
実施内容 E
(実施日:1/15)

■具体的な取り組み内容
地元大学等と連携し、著名な防災専門家をお呼びし、企業・地域住民を対象に企業防災や地域防災のリーダーを育成する。また研修会を通し、産官学民の平時からのネットワークを構築する。
同回では、静岡県被災者支援アドバイザーの永野海先生をお呼びし、「被災後の住まいと暮らし再建の備え」と題して講演いただいた。

■成果(提供者 or 参加者)
<提供者>
● 専門家とのネットワークを構築した。
● 48名の企業従業員・地域住民に生活再建の基礎的知見を提供した。

<参加者>
● 最前線の研究成果を把握し、地域防災や防災教育のための基礎的知見を身に着けた。
● 「大変満足」が70%、「満足」が30%と、回答者全員が「満足」以上と回答し、ウェビナーの満足度が他かった。
● 講演内容について、約88%が「とても役立つ」と回答し、内容の有用性についても、極めて高く評価された。



事業内容③
実施内容 F
(実施日:1/22)

■具体的な取り組み内容
地元大学等と連携し、著名な防災専門家をお呼びし、企業・地域住民を対象に企業防災や地域防災のリーダーを育成する。また研修会を通し、産官学民の平時からのネットワークを構築する。
同回では、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)の明城徹也先生をお呼びし、「災害中間支援組織とネットワークの重要性」と題して講演いただいた。

■成果(提供者 or 参加者)
<提供者>
● 専門家とのネットワークを構築した。
● 48名の企業従業員・地域住民に生活再建の基礎的知見を提供した。


<参加者>
● 最前線の研究成果を把握し、地域防災や防災教育のための基礎的知見を身に着けた。
● 全体の100%が「大変満足」と「満足」と回答し、研修への満足度が高かった。
● 研修の内容についても、「とても役立つ」と「やや役立つ」で90%以上を占めていることから、提供された情報が参加者のニーズと強く合致していたことが伺える。



事業内容③を実施
の中で発生した課題
や失敗点

■発生した課題や失敗点
企業・地域住民を対象とした研修であったため、特に平日の開催において、参加者の業務や地域活動との日程調整が難航した。また、著名な専門家による講演形式が主であったため、参加者が得た最前線の知見を、それぞれの企業や地域における具体的な防災行動計画やネットワークの実運用にまで落とし込むための、一歩踏み込んだ実践的なワークやフォローアップが不足しがちであった。

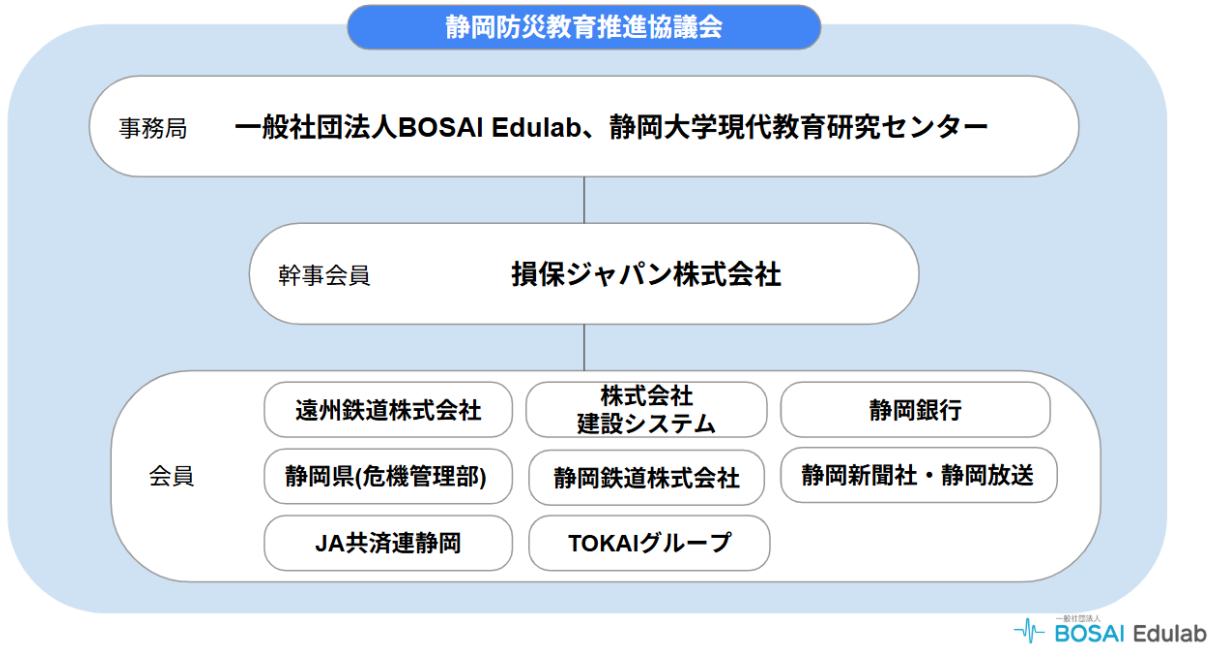
■乗り越えた方法
研修会後の交流会やアンケートで参加者の声を丁寧に収集し、単なる知識提供に留まらず、定期会議

	<p>においてフォローアップする形をとった。また、協議会メンバーに限ってはオンデマンド視聴を可能とし、いつでもどこからでも研修をキャッチアップする仕組みを整えた。</p>
<p>事業内容③を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 最前線で研究に従事する専門家に依頼し、また、静岡県の地域特性に応じた防災教育のための研修を実施した。具体的には、南海トラフ地震を想定した、地震の基礎や地震防災、防災教育について、さらには富士山噴火を想定した火山災害の基礎と防災対策について等である。 ● 公式サイト(https://bosai-shizuoka.jp/news/2025-11-25.html)や各会員のネットワークを用い、広く参加者を募集した。
<p>事業内容③ 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 他の分野(水害・津波・避難所運営・防災教育の手法等)の知見の共有 ● 講演後のフォローアップ ● 受講者間の意見交換の機会の提供
<p>事業内容④「産官学民連携・協働イベント『静岡 BOSAI Edu EXPO 2026』</p>	
<p>事業内容④目標 (提供者側)</p>	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業①～③で得られたノウハウや知見を多角的に集約・共有し、産官学民の連携による防災教育プログラムの発展に資する。 ● 本協議会の活動成果を県内外へ広く発信し、防災教育ネットワークへの新規参画を促進する。 ● EXPO を定期開催するための運営体制とノウハウを確立し、次年度以降の継続に繋げる。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● EXPO に 120 名以上の来場者を獲得する。 ● 事業を通じて新たに防災教育推進協議会の知名度を上げ、参画する団体を増やす(全体目標)。
<p>事業内容④目標 (参加者側)</p>	<p>定性目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な主体による防災教育の取り組みを体験・学習することで、自身の防災意識と知識を大幅に向上させる。 ● 出展者や来場者との活発な交流を通じて、企業、地域、学校などの枠を超えた新たな連携・協働の機会を創出する。 ● イベントで得られた知見を、各参加者の家庭や所属組織における具体的な防災行動に繋げる。 <p>定量目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 100 名以上の企業人や学生と交流する。 ● 防災の意欲を半数以上が獲得する。
<p>事業内容④ 実施内容 A (実施日:1/17)</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>「静岡 BOSAI Edu EXPO 2026」は、次世代の防災教育と地域協働の未来を担う一大イベントである。開催地の静岡県は、南海トラフ地震で全国最悪の死者数(10 万 3 千人)が想定されており、1976 年の東海地震説から 50 年が経ち、防災のマンネリ化・形骸化が深刻化している。この危機的な状況を前に、私たちは「徹底的な事前防災」の推進を喫緊の責務としている。</p> <p>本イベントは、「ボランティア元年」と言われる阪神・淡路大震災から 31 年の節目の日で開催され、中・高・大学生からの新たなアイデアや活動を応援し、世代と組織を超えた交流の機会を創出することで、静岡のこれまでの防災の突破口とすることを目指す。未来を担う若者たちの活動を表彰するとともに、産官学民が手を取り合い協働する場として、大規模災害に立ち向かえるレジリエントな社会の構築に貢献する。防災先進県静岡から、この先進事例を全国に発信していく。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者)</p> <p><提供者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全体で 120 名の参加があり、幅広い層の交流 </div> <div style="flex: 1;">  <p>告知ポスターには、イベントの概要、開催日時(1月17日 13:00-17:00)、会場(札の辻クロスホール)、主催(静岡防災教育推進協議会)、協賛(内閣府「防災教育の取組」推進事業)などの情報が掲載されている。また、「Shizuoka BOSAI ユース Award」の募集情報や「防災意識の高い企業・団体と出会う」の企画も紹介されている。</p> </div> </div>

	<p>の場として EXPO を機能させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開催の様子はメディアにも取り上げられ、広く発信された。 ● 協議会参加企業・団体の出展を行ったことで、それぞれの活動の発信はもちろん、企業・団体同士の関係構築にも繋がった。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 静岡県内における様々な防災の取り組みを知る機会となった。 ● 各校の発表や専門家の講演を通して、防災への新しいイメージを獲得した。 ● 参加者の9割以上から高い満足度を得られ、参加したことで約7割が防災意欲が「非常に高まった」、3割が「やや高まった」と回答した。 ● 参加したことで産官学民の連携について、複数回答で聞くと約47%が「連携の可能性は感じたが具体的な動きには至っていない」と回答し、次いで40%が「今後、連携の相談をしてみたい団体が見つかった」、約25%が「具体的な連携先が見つかった」と回答し、半数近くが連携の可能性を感じ相談したいと考えていることが分かった。 ● 自由記述では、「普段関わることのない学校や大学生、大人と交流できて楽しかった」、「他企業との横の繋がりを獲得できた」などの声が寄せられたほか、「今後の探究活動に活かそう」、「他組織と連携して幅広い層に防災を啓発していきたい」など今後の防災活動への参考になった様子が見受けられた。 	 
<p>事業内容④を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展示物の準備が困難 ● 参加者への配布物の準備が困難 ● 司会進行役の不在 ● 参加者への温かい飲み物の提供のための給湯器がない <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大学等の協議会メンバーへの印刷依頼 ● 当日朝に協議会メンバーで袋詰め作業を行った ● 地元テレビ局へ依頼し、アナウンサーに司会をお願いした ● オフィスの近い協議会メンバーにポットを貸していただいた 	
<p>事業内容④を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災に取り組む地元高校生・大学生を中心とし、防災教育に取り組む県内企業や地域防災リーダーをイベントのターゲットとし、世代や組織を超えた交流を積極的に促した。 ● 様々な世代や組織からの取組に関する発表時間を設けたほか、発表の間には交流時間も設定した。 ● 静岡 BOSAI ユース ward2026 では、高校生・大学生を懸賞し、静岡県全体で若者を応援する基盤を醸成した。 ● 公式サイト(https://bosai-shizuoka.jp/news/2026-01-05.html)や各会員サイトで広く参加者を募った。 ● 公式サイト(https://bosai-shizuoka.jp/news/2026-01-30.html)や各企業サイト(https://www.bosai-edulab.jp/blog_260128)で開催報告を行い、実践の知をデータ化しアーカイブした。 	
<p>事業内容④ 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 団体・関係者の連携に向けてのサポート ● EXPO の継続的な開催 	

■参考資料

協議会メンバーについて



協議会体制図

スケジュール

実施項目	9月	10月	11月	12月	1月
世代を超えた防災教育		実施	実施	実施	実施
被災地での防災研修・ボランティア	実施	実施	実施		実施
企業・地域防災リーダー研修			実施 実施	実施 実施	実施 実施
「産官学民連携・協働イベント『静岡BOSAI Edu EXPO 2026』」					実施

一般社団法人 BOSAI Edulab

実施スケジュール



総合防災アプリ「クロスゼロ」にてデータの共有や連絡を行う様子



[トップ](#) [お知らせ](#) [事務局・会員](#)

静岡防災教育推進協議会とは

南海トラフ地震において全国で最も甚大な人的被害が想定されている静岡県において、事前に産官学民連携による防災教育を実施し、平時からの団体間ネットワークを構築するとともに幅広い世代の防災人材を育成し、静岡県内のレジリエンスを向上させることを目的として発足いたしました。

[お知らせ](#)



[協議会公式サイト](#)



静岡防災教育推進協議会とは

2025年7月、損害保険ジャパン株式会社、静岡県、静岡大学藤井基員研究室の三者により、静岡県庁にて「盛岡学部ワークショップ」が開催されました。企業・団体が参加し、共同開発されたSDP（事業継続計画）教育プログラムをもとに、地域防災について意見交換が行われたことを契機に、本協議会が発足しました。本協議会は、産学官民の知見を共有し、組織の枠を超えたネットワークを構築することで、静岡県における防災教育のさらなる充実を目指しています。





静岡 BOSAI Edu EXPO 2026

次世代へつなぐ、生きる力
静岡発、BOSAIの協働ネットワーク

高校生・大学生からの新たなアイデアや活動を応援し、世代と組織を超えて交流し合う。防災教育と地域協働の未来を担う防災イベント。

1月17日 土 13:00-17:00
札の辻クロスホール
会場 静岡市東区高須町1丁目30札の辻クロスホール

参加者アンケートにご協力をお願いします！



協議会 参加企業団体

 損害保険ジャパン株式会社	 一般社団法人 BOSAI Edulab	 静岡大学 (現代教育研究センター)
 株式会社静岡銀行	 静岡県 (危機管理部)	 静岡鉄道株式会社
 静岡新聞社・静岡放送	 全国共済農業協同組合連合会静岡県本部	 TOKAIグループ

協賛企業

 株式会社建設システム	 遠州鉄道株式会社
---	---

PROGRAM

13:00 開会式

13:15 **Shizuoka BOSAI ユース Award**
防災の取り組みを表彰に行っている5校の高校・大学の学生が取り組みを発表

14:15 **交流時間**
参加企業のブース出展・交流カフェコーナーあり
防災意識の高い企業・団体と出会う！

15:30 **審査員講演**
『学校教育における防災教育の未来』
文部科学省 安全教育調査官 木下史子氏
『学校における防災教育の重要性』
石川県穴水町立穴水中学校校長 廣澤孝俊氏
『地震半島地震・牧之原台風をはじめとする被災地状況と防災ビジネス』
株式会社 Mutubi 代表取締役 加藤愛梨氏

16:30 結果発表・表彰式

16:45 閉会式

審査員紹介



文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会担当 安全課
安全教育調査官
木下 史子 氏



石川県穴水町立穴水中学校
校長
廣澤 孝俊 氏



株式会社 Mutubi
代表取締役
加藤 愛梨 氏

STUDENT

Shizuoka BOSAI ユース Award 発表校

- 静岡東高校
- 島田樟誠高校
- 駿河総合高校
- 静岡サレジオ高校
- 静岡大学 学生防災ネットワーク



FLOOR MAP

● ホール

● 会議室 2

● 会議室 1



静岡 BOSAI Edu EXPO 2026 当日パンフレット



静岡 BOSAI Edu EXPO 2026 当日クリアファイル



静岡 BOSAI Edu EXPO 2026 当日 Word ラリー



はじめに..... 1

BOSAI ユースアンバサダープログラムの紹介..... 2

Work 1：防災の基礎について学ぶ..... 3

Work 2：調査・企画する..... 6

Work 3：実践する..... 11

Work 4：振り返る..... 12

防災の基本情報..... 13

学ぼう！ 伝えよう！ 広げよう！
Work Book



はじめに

藤原真希 (神戸大学教育学部准教授)

30万の国士を持つ日本、70%以上が起伏に富む山地となっており、震災は常に懸念されています。日本列島は地球から10数枚のプレートのうち、4つがせめぎ合う地形の上であり、これまで地震や台風といった多くの自然災害を繰り返しながら、先人たちは独自の防災文化を築いてきました。こうしたなかで2011年に起きた東日本大震災は従来の取組に対して新たな転換を迫るものとなりました。

志高インテラ (防災課・防災プログラム) の期間や建物の耐震補強といったハードウェア対策の拡充にとどまらず、ハザードマップの改訂、地域を巻き込んだ避難訓練の実施、学校における防災教育の実践といったソフトウェアの見直しも課題となり、あわせて、災害という急変事態に対応するために、私たちが日常からどのような思考や判断を養う必要があるかというヒューマンウェアに関する研究も進められてきました。

私たちはこれまで「防災の三要素」を視野に入れつつ、教職を目指す学生たちと共に防災教材の開発や普及に取り組んでいます。疑問のなかで大切にしてきたことは「考える防災」、「寝さない防災」、「伝える防災」の三つです。災害時の心理的負傷場面について考える「防災連続」授業の開発、「寝さない防災」を全国にわたる防災防災の開発・提供、災害時保護者を対象とした防災訓練の実施などの経験をもとに、2019年度からは地域の防災防災実践活動と連携して学校になる「伝える防災」プログラムを開発しました。それが発展版となる「BOSAI ユースアンバサダープログラム」です。

このプログラムでは、みなさんが防災に関する基礎理解を確認・習得するとともに、地域防災に貢献を果たすことのできるコミュニケーション力やリーダーシップを高めることを目指しています。あわせて、地域防災の担い手として、主体的に防災教育の活動に参加し、市民社会の能動的形成果者としての資質・能力を養ってほしいという思いです。また、私たちは日本の文化である「防災」を海外にも広く伝えたいという思いから、このプログラムはタイトルに「BOSAI」という表記を使っています。そして皆さんには「防災 (BOSAI)」と「遊び (ASOBI)」とを組み合わせさせた独自の防災訓練企画・実践をしてもらいます。「BOSAI X ASOBI」を通して、みなさんからどんなアイデアが生まれるか楽しみにしています。

このワークブックには講義の書き込み欄、基礎的な防災知識、関連情報へのアクセス方法などが掲載されています。プログラムを受講するときは必ず準参し、思いついたことや新たに知ったことを書き込みながら、みなさんの方で新たな防災訓練を開き上げてください。一緒に新しいBOSAIの扉を開きましょう。



ようこそ「BOSAI」へ
一緒に新しい扉を開きましょう！

制作した高校生向け防災教材